

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 247

2017/06/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

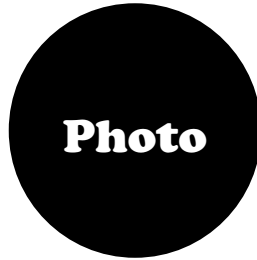
GREEN COLUMN

01. 駒生地区の遺跡

02. 溪流で暮らすトンボ



今月の一枚



「ヒグマ像と桜」

表紙写真・文／八重柏誠

暖冬の影響でしょうか、美幌町の桜の開花は例年よりも早く、ゴールデンウィーク中に満開となりました。博物館のある「みどりの村」の敷地内には、多くの桜の木が植樹され、美幌の花見スポットとして、多くの方々が桜を楽しんでいく様子が見られました。

博物館の裏のヒグマ「美幌」も、桜を楽しんでいるように見えました。

Event. 今月のイベント

企画展「相生線で Go!」 ～7月2日（日）

モノ作り講座「おしゃれなフォトフレーム」 6月10日（土）

プチ工房「滑石のアクセサリ^{かつせき}」 6月14日（水）, 16日（金）

博物館講座（自然編）「初心者からの草花観察」 6月17日（土）

Information. 参加者募集

モノ作り講座 「おしゃれなフォトフレーム」

●6/10(土)【午前の部】10:00-12:00【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料代(500円)
●金坂園子(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(6/1-6/9)。対象は小学生から一般, 小学校3年生以下は保護者の同伴が必要, 各回定員12名で締切。

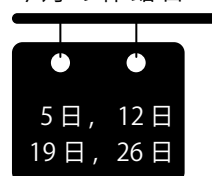
プチ工房 「滑石のアクセサリ」

●6/14(水), 16(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円) ●八重柏誠(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座（自然編）「初心者からの草花観察」

【観察会】 ●6/17(土) 9:30-12:30 ●美幌町瑞治(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野外で活動できる服装, 飲み物, 長靴, 雨具, 虫よけ, お持ちの方は植物図鑑 ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(6/1-6/14)。キャンセルは6/14まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員25名で締切。当日雨天の場合は室内で行います。ご参加の方には記念品を差し上げます。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

こまおい 駒生地区の 遺跡

写真・文／八重柏誠



国際博物館の日記念行事として、美幌博物館では、ロビー展を行いました。考古学の分野では、美幌町の各地区で見つかった遺跡の中でも、駒生 10 遺跡周辺で表採されたとされる寄贈資料を中心に、駒生地区の展示を行いました。写真は、展示した資料の一部です。

「駒生」の名称は、大正～昭和初期に、牧場用地として若駒の育成が盛んだったことに由来しています。牧場として使われたのは、農業に適した平坦な場所が少なかったためでしょう。現在は開発が進み、川に沿って農地が広がっていますが、遺跡が立地する場所としては、一見不利な印象を受ける場所です。

ところが駒生地区では、農地整備に伴う事前の調査などによって、10 か所の遺跡が立地していることが明らかになり、今後も増えて行く可能性を

秘めています。なぜ、駒生地区で多くの遺跡が見つかるのでしょうか。その理由の一つと言えるものが、アイヌ語地名に隠されていました。

駒生地区を流れる駒生川はアイヌ語で「チェプンオンネナイ (chep-un-onne-nay)」と呼ばれていました。言葉の意味は、サケが上る大きな川で、秋になると数多くのサケが遡上していたのでしょう。サケはアイヌの人々にとっても、それ以前の先史時代の人々にとっても、貴重な食料資源でした。貴重な食料資源がたくさん遡上する駒生川の近くに、遺跡が残されていたのも、当然だといえるかもしれません。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

溪流で暮らす トンボ

写真・文／鬼丸和幸



5月に入ると、淡い色をした木々の芽吹きが、美しく感じられるようになってきました。山あいの溪流沿いを歩くと、橙色をした^{はね}翅を持ち、ヒラヒラ飛ぶトンボの姿が見られるようになります。

これは、ニホンカワトンボ。体長60mmほどで、溪流で暮らすトンボです。翅の色は、オスでは橙色や淡橙色・無色の3タイプ、メスでは淡橙色・無色の2タイプがあり、地域により異なります。

美幌町内では、これまで44種類のトンボが確認されています。そのうち、溪流でよく見られるトンボは7種類ほどで、その中でもニホンカワトンボが一番早い時期に姿を見せてくれます。網走川や美幌川の本流や支流で、広く見ることができます。

体の大きさの割に、ハネの面積が大きく、他のトンボのように“素早く飛

ぶ”というより、チョウのように“ゆらゆら”と飛びます。天気の良い日などは、緑銅色の体と橙色の翅が青い空に映え、とても美しく見えます。

カワトンボの仲間のある種類では、オスはメスの交尾器に残された他のオスの精子をかき出して交尾する行動が、しばしば見られています。

小さな体の昆虫ですが、あの手この手を使い、自分の子孫を残すための驚くような工夫をしています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



「木々の若芽が美しい」「遠く見える山々の残雪が美しい」「土が香ばしい香りがする」…“春が来た！”と実感できる瞬間ですが、最近では「目がすごくかゆい」「体がだるい」…という体内花粉センサーの反応が、春の訪れを教えてくれるようになりました。(鬼丸)